



2016年4月13日放送

## 印象に残る症例①

女性クリニックラポール 院長 中原 恭子

今回のテーマに選んだ漢方薬は荊芥連翹湯です。

婦人科医は漢方薬の処方にもハードルの低い位置にいると考えられているでしょう。なぜなら女性を相手にする科であり、女性には血の道症があるからです。産婦人科三大処方、これはツムラの23番、24番、25番である当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸ですが、そのような言葉もあるぐらい婦人科医はもっとも漢方に近い位置にいると思っています。そんな中で私が、現在のような多岐にわたる漢方を使いだすきっかけになった処方である荊芥連翹湯についてお話ししたいと思います。

しかしながら、そのケースを今回詳細に思い返してみると、私がおのころ考えた以上に、実はいろいろ示唆に富む内容を含んでいたことに気づかされました。

さてその症例ですが、開業初日に来られました。

主訴は、続発性無月経、体重減少、脱毛でした。

30歳女性。身長166cm、体重42.6kg、BMIは15.5でやせ、

血圧96/64、脈拍58、体温36.3度でした。

来院の1年以上前から生理がなく、体重は1年で5kg減っていました。

生理がなくなる2年くらい前から脱毛があり、薬局の薬剤師による食養生を受けていました。その内容は、油脂をほとんどとらない、胃に負担のかからない食事をするように、とのことだったそうです。しかしながら、すでに3年以上忠実にそれを守って行っている

にもかかわらず効果を認めず、その代り体重は 5 kg 減りました。

血液結果は総蛋白、アルブミン、肝機能正常、甲状腺機能は TSH 正常でしたが、FT3 は 1.9 でやや低下、血糖値正常、PRL 正常、LH と FSH が 1 以下で低値、エストラジオールは 14 以下と低値でした。超音波所見では、子宮は萎縮傾向で子宮内膜も薄く、両卵巣に卵胞を見ることはほとんど困難でした。

一方、漢方所見は、舌色は紅、一部剥苔、中心部舌苔があり、陰虚舌であり、脈診は偏弦、中位、腹診では心下痞硬、臍傍圧痛を認めました。頭皮には湿疹があり、フケを伴い、脂漏性でした。弁証は血虚気滞から肝鬱、瘀血、脾虚。この時はまだ脱毛の原因に頭が回っていませんでした。

まずは女性ホルモン剤投与し生理を誘発し、かつ管理栄養士による栄養指導を行いました。間違った栄養指導による体重減少によって引き起こされた無月経であるのは明白でしたので、極端に少なかった肉・果物の摂取を増やすようにさせました。その 2 週間後消褪出血が見られ、その後、加味逍遙散 1 日 5 g 2 分服で処方して、2~4 週間の間隔で基礎体温を付けてもらいながら経過をみていきました。経過後 2 か月で体重は 2 kg 増加して 44.6 kg になっていましたが、頭のフケは改善したかのようでしたが脱毛は相変わらずで、生理もまだ見られず、本人は漢方の効果はわからないとの返事でした。

そこで柴胡加竜骨牡蛎湯を 2 か月併用しましたが、髪には効果が全くありませんでした。また 1 回ホルモン剤での生理を誘発した後は生理の自然発来はなく、11 月 29 日に柴胡加竜骨牡蛎湯を中止し、加味逍遙散に温経湯を追加しました。体重は初診後 5 か月で 47.4 kg で、約 5 kg 増加していました。

その年の 12 月に冷えを訴えたため、さらに真武湯を 2.5 g 追加し、翌年の 1 月 18 日に生理が自然に起こりました。初診から 7 か月が経過していました。体重は初診より 5kg 増加を維持していました。この時点で脱毛は減ったとのことでした。しかしながら、1 か月後の 2 月 21 日には再びフケが増え、以前のようなべたつきはないものの頭皮に炎症があり、顔にもかぶれが出てきました。

職場の労働条件のことでストレスがあるとのことでした。真武湯の投与で多少のぼせる傾向がでたため中止し、加味逍遙散と温経湯にもどし、それぞれ 1 日 5g ずつ内服させました。生理はその週の 2 月 23 日から 8 日間自然にありました。ただし基礎体温は 1 相性。

翌月、頭皮の状態は多少改善して、それを維持していました。3、4 月は体温上では無排卵性月経のようでした。子宮がん検診では異常ありませんでした。治療から約 1 年経過し、温経湯を桂枝茯苓丸に変更したりしましたが、月経の方の症状は一進一退のままでした。体重のほうはさらに 0.6kg 増加していました。その夏 7 月には再び脱毛が気になると相談あり、血虚傾向が強いと判断し四物湯 2.5g を追加し、これで 2 か月飲みましたが、脱毛に加え、またべたつきが気になるとのことで、また、出血も不正出血や過長月経がみられました。しかし基礎体温は 8 月に高温相らしき部分が認められるようになりました。

頭の中に発赤やニキビ様の発疹をみとめ、顔にも同様にニキビがあったので 9 月 18 日、

初診からすでに1年3か月経過した受診時に、初めて荊芥連翹湯を1日5g2分服で開始し、2週間服用してもらいました。ここで急速に顔と頭皮の炎症が軽減し、髪の毛のべたつきも改善傾向となり、不正出血もそれにやや遅れて消失しました。この時点での処方が、加味逍遙散と温経湯それぞれ1日5gと荊芥連翹湯を5gでしたが、症状が落ち着いてからは、荊芥連翹湯のみ2.5gとして継続しました。するとさらに2か月後には明らかな高温相を認めるようになり、その後、基礎体温は毎月2相性、生理は順調、不正出血の消失、さらに、脱毛は多少あるものの軽減、頭皮の炎症もなくなりました。季節によっては頭皮を含めて顔面にも湿疹ができることがあり、その時には荊芥連翹湯の服用を倍量で対応しました。初診からすでに2年経過した頃、薬を漸減しても症状が再燃しないため廃薬としましたが、その後、婦人科検診で顔をお見せになられますが、月経順調、頭皮のトラブルも訴えることはなくなりました。

この方は、そもそも誤った栄養指導によって引き起こされた体重減少が原因で陥った無月経で受診されました。初診時のBMIは15.5しかなく、17以下だと不可逆的な無月経になるといわれており、ホルモン剤による月経の誘発は最初からは控えた方が良いと言われていました。そこでまず不適切な食事を改めるように適切な栄養指導を行いました。体重は初診から2か月で2kg増加、7か月で5kg増加しました。その頃から排卵周期ではないものの、今まで全く生理が1年以上なかったのに生理様の出血が始まりました。

最初の誤った栄養指導を受ける原因となった元の理由は脱毛と頭皮のべたつきでした。今回の処方是最終的には到達に2年近くかかりましたが、無月経のみならず頭皮や髪の毛のトラブルも解決することができて、患者さんもわたくしも頑張った甲斐のあった症例でした。

この症例を通じて、頭皮や髪とストレスには関係があることを改めて知らされましたし、ストレスで熱証に陥られるプロセスもよくわかりました。この患者さんは熱も冷えも訴えて寒熱錯雑でしたが、よく訴えに耳を傾け、処方のさじ加減をすることで標治をしながら本治に至ることができたと思います。

この経験に基づいて、上半身の熱証に加えて脱毛、特に髪の毛のべたつきを訴える方に荊芥連翹湯を処方するようになりました。以前から慢性鼻炎、花粉症によく用いていましたが、熱証があるが、うるおいにけるような上半身の炎症に効果を認めやすいこと、皮膚のやや深部に効果のある印象を持っています。

荊芥連翹湯のルーツは、日本の伝統医学の中の「一貫堂医学」にあります。この流派の特徴として、病人を「三大体質」に分類します。三大体質とは「臓毒証」、「瘀血証」、「解毒証」です。荊芥連翹湯は解毒証体質に使う処方です。解毒証体質とは、一貫堂医学によれば、「結核にかかりやすいタイプ」といわれています。

生薬構成は、荊芥・連翹・防風・当帰・川芎・芍薬・柴胡・枳実・黄芩・山梔子・白芷・桔梗・黄柏・黄連・地黄・薄荷各1.5、甘草1.0であり、温清飲に+荊芥、連翹、枳実、柴胡、桔梗、白芷、防風ともいえます。つまりこの中に四物湯が入っており、今回のこの症例も2年目

の夏に血虚症状に気づき四物湯を少々追加した時に、改悪した部分が多かったのに基礎体温に 2 相性パターンを初めて垣間見ることができて、体の中で何かが動いたことを感じた一瞬、それを大切にして続けて荊芥連翹湯に処方を替えることができたのだと思います。今思えば本当に示唆に富む素晴らしい患者さんとの出会いだっただと思います。何しろ開業初日の患者さんですから。